乱流微細構造と高シュミット数スカラー混合のフラクタル特性 Fine Scale Structure and Fractal Geometry of Scalar Mixing at High Schmidt Numbers in Turbulence

 石本 祥義,東工大院,東京都目黒区大岡山 2-12-1, E-mail:sishimot@navier.mes.titech.ac.jp 佐藤 允,東工大院,東京都目黒区大岡山 2-12-1, E-mail:msato@navier.mes.titech.ac.jp 瀬尾 健彦,東工大院,東京都目黒区大岡山 2-12-1, E-mail:tseo@navier.mes.titech.ac.jp 店橋 護,東工大院,東京都目黒区大岡山 2-12-1, E-mail:mtanahas@mes.titech.ac.jp 宮内 敏雄,東工大院,東京都目黒区大岡山 2-12-1, E-mail:tmiyauch@mes.titech.ac.jp
Sachinori ISHIMOTO, Makoto SATO, Takehiko SEO, Mamoru TANAHASHI and Toshio MIYAUCHI Dept. of Mechanical and Aerospace Engineering, Tokyo Institute of Technology, 2-12-1 Ookayama, Meguro-ku, Tokyo, 152-8550, Japan

Direct numerical simulations (DNS) of temporally developing turbulent mixing layer with scalar transport have been conducted to investigate the fine scale structure and the fractal geometry of scalar surfaces in turbulence. To investigate Schmidt number (Sc) effects on the turbulent scalar mixing, DNSs of turbulent scalar transport up to Sc=30.0 have been conducted for moderate Reynolds number. For high Sc, two fractal dimensions can be defined. The first fractal can be observed in relatively large scales. The dimension of the first fractal coincides with that of moderate Sc number case in the inertial subrange and is around 2.5. The second fractal dimension can be defined in small scales and shows larger values (about 2.8), which denotes self-similarity of scalar surfaces smaller than the Kolmogorov length. The inner cutoff of the second fractal reaches to about 10 times Batchelor length scale for high Sc.

1. 緒論

自由せん断流では、流れ場の乱流遷移に伴い熱・物質混合が急 激に促進されることが知られている. この現象は混合遷移と呼ば れており、燃焼器の高効率化等において非常に重要であるが、混 合遷移現象の発生機構は未だ明らかにされていない. 近年、乱流 の直接数値計算(DNS)結果から、乱流中には流れ場やレイノルズ 数に依存しない普遍的な微細渦構造(コヒーレント微細渦)が存 在することが明らかにされている⁽¹⁾. これらの微細渦は乱流中で の熱・物質等のスカラー輸送に関しても重要な役割を果たしてお り(2), コヒーレント微細渦の回転平面内での楕円特性と渦周囲に 形成されるスカラー変動及びスカラー散逸の間に明確な相関があ る. このようなことから、乱流のコヒーレント微細渦は混合遷移 現象とも密接に関連しているものと考えられる. 本研究では、混 合遷移期を含む高シュミット数のスカラー輸送を伴う時間発展乱 流混合層の直接数値計算(DNS)を行い、乱流混合のフラクタル特 性と乱流コヒーレント微細渦の関係を明らかにすることを目的と している.

2. 乱流混合層のフラクタル特性と混合遷移

本研究では、パッシブ・スカラー混合を伴う時間発展乱流混合 層を対象として、主流速度 $\underline{\hat{E}}(\Delta U)$ と初期渦度厚さ(δ_{aa0})に基づくレ イノルズ数(Re_{aa0})が 500 として、シュミット数(Sc)が最大で 30.0 の場合に対して直接数値計算を行った. 図1はSc=0.6 とSc=30.0



Fig.1 Distributions of scalar mass fraction on a x-y plane for $Re_{\alpha,0}$ = 500.

の =150 における x-y 断面での濃度分布を示している. 濃度分布 はシュミット数の増加とともに複雑になり、より小さな変動を示 すようになる. また、シュミット数に関係なく濃度分布の全体的 なパターンはほぼ一致している. これはそれぞれのケースにおけ る乱流構造が全く同じためである.過去の実験的研究では、濃度 場の可視化により視覚的に複雑となった場合に混合遷移が生じた と判断する場合が多い.しかし、この定義はきわめて曖昧である ため、本研究では直接数値計算より得られた濃度分布に対してフ ラクタル解析を導入した. 図2は、フラクタル次元とフラクタル 特性を示すスケールの上限 inner cutoff の時間変化を示している. 中程度の大きさのシュミット数に対してフラクタル次元は一つだ け定義できる.しかし、高シュミット数の場合、二つのフラクタ ル次元(D1, D2)を定義できる. D1は比較的大きなスケールにおいて 現れ, Dと同程度の大きさであり, Sc に対してほとんど変化しな い. D,は微細スケールにおいて現れ、その値は 2.8 程度である. inner cutoff はシュミット数の増加とともにngに対して増大する傾 向にあり、約10_{*n*}となる(図2(b)).

参考文献

- Y. Wang, M.Tanahashi and T. Miyauchi, "Coherent fine scale eddies in turbulence transition of spatially-developing mixing layer," International Journal of Heat and Fluid Flow, 28(2007), pp.1280-1290.
- (2) 店橋・岩瀬・ウッディン・高田・宮内, "一様等方性乱流中のコヒーレント微細渦の空間分布と熱輸送," Thermal Science and Engineering, 8,(2000), No. 3, pp. 29-38.



Fig.2 Development of (a) fractal dimension and (b) inner cutoff.